

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 佳作

一つの未来の私から、あなたへ

(原文)

伊藤 菜月 (17 歳)

千葉県

千葉県立幕張総合高等学校

2020 年、令和 2 年。まだ高校生 3 年生のあなたへ、2030 年、令和 12 年。もうすぐ三十路になる私より。

貴方のいる日本は、今は息苦しい世界でしょう。みんながみんな、病気を恐れ、殺気立ち、心無い言葉がいつもより多くて、息苦しい世界に立っていることでしょう。あなたは、学校にも行けず、友人にも会えず、外にもあまり行けず、精神的に疲れていると思います。でも、安心してほしい。未来の日本は、世界は、ちゃんと息をしています。だから今は、じっと我慢をしてほしい。大丈夫、少しずつ、少しずつ、希望は見えてくるのだから。もう少しの辛抱です。

さて、あれから 10 年が経ちました。未来の世界はようやく、一つになりつつあります。まず戦争が無くなりました。世界中、どこに行っても、銃弾が飛び交っているような所はありません。難民と呼ばれた方々も、少しずつ、安心できる生活を送ることができるようになっていきます。多くの人が、彼らを支援しています。差別？ そんな言葉はもう死語です。もう新聞にも、SNS にも、会話にも、出てくることはありません。私の友人は元難民です。とても気さくで、やさしい、私の大切な友人です。彼女はとても幸せそうです。

それから、環境について、より話し合われるようになりました。自国の利益よりも、地球の未来について、各国の代表は話し合っています。まだまだ、時間はかかりそうですが、いつかあなたよりも年下の少女が訴え続けたことが、実現されそうです。未来にこの美しい青色の惑星が、残すことができると思います。

これら全て、今のあなたが「夢だ、幻だ。現実になりっこない」と思っていたことです。でも、未来は違う。なぜだと思う？

私は今、貴方がなりたかった、中学校の先生になっています。AI 教育システムが導入されて、私の教え子たちは今の貴方よりも頭がいいと思います。時々、自分も教師という立場が危うくなりそうで恐ろしいです。

私のいる未来では、いじめなんてありません。教師が見落としている、隠している。そうではありません。本当に、存在しないのです。新聞にいじめ問題がでることも、SNS によるいじめの告発もな

くなりました。生徒たちにいじめの話をする、「そんなことがあったのか。変なの」と言われます。それがもう、子供たちには常識なのです。新しい常識です。とても幸せな、常識です。

今のあなたが「夢だ、幻だ。現実になりっこない」と思っていることです。でも、未来は違う。なぜだと思おう？

世界が思いやりに気が付いたからです。正確に言えば、争うより分かち合った方が幸せだという事に気が付いたのです。私たちは争って、多くの物を失いました。争って、多くの人が傷つきました。争って得たものもあります。ですが、その陰で誰かが羨み、怒り、拒絶し、そしてまたどこかで争いました。こうしてずっと傷つき、傷つけあう、負の連鎖が、どうしても断ち切れませんでした。でもようやく世界は「なんて馬鹿らしいことか」と気が付いたのです。そうしてようやく、お互いの違いを受け入れるようになりました。宗教、民族、言葉、皮膚の色、目の色、髪の色、それら全てが異なっても、私たちは同じ人間で、助け合うのが当たり前なのだと、ようやく本当の意味で気が付いたのです。そうやって、大人が変わっていくと、次第に下の世代にも伝わっていきました。助け合うのが当たり前で、違うのが当たり前。悪いことをしたら、認めるのが当たり前で、謝るのが当たり前。その常識を私たちが作ったのです。幸せな常識を、私たちが。

私が伝えたいことはたった一つ。思いやりを大切にしてください。あなたの背中を、子供はみています。私は、目の前にある、何本も何本も枝分かれした道の先にある、たった一つの未来です。あなたが夢見る幸せな未来です。争い続ける未来も、もっと悪い未来もあるかもしれない。けれど、未来を築くのは、今のあなた達です。